

平成24年度 学校評価総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

重点目標1 安全の保障にむけて					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	価値	学校関係者の意見 今後の改善方策
防災教育を推進し安全安心な防災環境の充実が不十分である。	(全校レベル) ① 防災教育と防災管理の点検と見直し [学校生活部]	評価指標 ① 防災避難訓練（地震・津波・火災）を学期に1回以上実施するとともに、各学部・学級・ホームルームで年間3回以上防災に関する学習を行う。	評価指標の達成度 ① 1学期に地震・津波想定避難訓練を実施した。2学期には地震・津波想定避難訓練と火災避難訓練を実施予定である。また、各学部の各学級・ホームルームで1・2学期に3回以上防災に関する学習を行い児童生徒と共に教職員の意識化を図った。	総合評価 (評定) A (所見) 近い将来起こるとされている東海・東南海・南海3連動地震に備えて、学校防災地域連携協議会を立ち上げ年3回の防災対策に向け取組を推進することができた。	・防災については、まだ十分に知られていない。学校から積極的に情報を発信していくことや、いろいろなイベントを利用して、特に地域の方々との交流を図っていくことが大切である。インターネットやホームページの利用も進んできているが、「百聞は一見にしかず」で、来て見ていただく体験することが一番大切かと思う。防災においても地域の方々に助けていただく方々に利用してもらいながら交流を密に図っていくことが大切なことである。 ・3つの重点目標それぞれ計画し、体系立て、非常に熱心に取り組んでいる印象を受けた。特に地域との連携の問題で、防災については、地域連携協議会を立ち上げ、地域の方に入っただき共に経験を
	② 防災に係る関係機関との連携と協力体制の構築 [学校生活部]	② ひのみね学校防災地域連携協議会を学期に1回実施する。	② 各学期に1回地域の防災担当者、行政や関係機関と「ひのみね学校防災地域連携協議会」を実施して、実状を確認し、協力体制の構築に向けて働きかけることができた。	ゴーヤ栽培を行い、緑のカーテンづくりに取り組んだ。また、スノーズレンガーデンの造園過程で草花を育成し五感に働きかける教育環境づくりを行った。保護者からのアンケートについて安全安心を感じる事ができるかとの項目において、「とても思う」が27.8%で「思う」が66.7%の	
	③ ユニバーサルな教育環境の推進と環境教育の充実 [各学部]	③-1 「児童生徒が主体的に活動できるわかりやすい教室環境や教材教具、支援ツール等を工夫することができた」という評価を80.0%以上得る。	③-1 教員に対するアンケート結果で「とても思う」が17.0%で「思う」が79.2%という回答があり合わせて96.2%になりほぼ目標数値が達成できた。		
		③-2 節電対策等緑のカーテンを育成する。	③-2 生徒と教員が協働で事務室前にゴーヤのカーテンを栽培した。また、		

中庭では教室前でアサガオやキュウリを育成した。

回答があり，合わせて94.4%であった。「あまり思わない」は5.6%であった。無回答数は1であった。また，児童生徒が主体的に活動できる教室環境や教材教具を整えて支援ツール等の工夫ができていたかの項目において，「とてもそう思う」が21.6%で「そう思う」が70.3%の回答があり，合わせて91.9%であった。「あまり思わない」は8.1%であった。

積み重ねていくことは大事であり是非，継続して取り組んでもらいたい。

・震災については，いろいろな訓練を想定していることがわかった。子ども達は自由に動けるのであれば簡単だが，本校は障害の重い子どもが多い。訓練の回数を重ね，とっさの時にも十分対応できるようにお願いしたい。

活動計画

① 5月・10月・2月に地震・津波想定避難訓練を実施し，8月に放水訓練，10月に火災想定避難訓練を実施する。
また，各学部の学級・ホームルームで避難訓練の事前事後の学習や，児童生徒の実態に応じた防災学習を自立活動や理科・社会等の時間に実施する。

② 5月・9月・1月にひのみね学校防災地域連携協議会を実施し，本校の防災体制を強固にするとともに，その後の避難訓練や防災学習をより充実させる。

③-1 校内のユニバーサルな教育環境や児童生徒が主体的に活動できる支援ツール等について紹介する事例集を作成し，校内での活用と啓発を図る。

③-2 体験学習を通して，植栽活動やゴミゼロ活動，リサイクル活動を取り入れた授業や行事を実施する。

活動計画の実施状況

① 5月・10月に地震・津波想定避難訓練を実施した。11月に火災避難訓練を，2月に地震・津波想定避難訓練を実施予定である。また各学部の各学級・ホームルームで，避難訓練の事前事後の学習や防災学習に取り組むことができた。

② 地域との情報交換及び本校主催の避難訓練や起震車体験等に参加していただくことで，地域とのつながりが高まった。

③-1 授業でVOCAやスイッチ，電子黒板，iPad等のICTの活用が進み，児童生徒が主体的に活動できる教材や支援ツールの活用が増えている。

③-2 各学部で花や野菜等の栽培に積極的に取り組み，体験を通じた環境教育を推進できた。また，作業等の授業で空き缶回収や雑紙を使ったはがきの製作等を実施し，リサイクル活動に取り組んだ。

重点目標2 学習の充実にむけて

<p>外部の専門家や協働体制による授業改善が不十分である。</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① 「自立活動」と指導方法の検証を行う。 [自立活動部] [支援・研究開発部]</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 PT・STによるコンサルテ 内容や指導方法が向上したとい う教員評価を80%以上得る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 「指導内容や指導法 という項目は「とてもそ う思う」が35.8%で「そ う思う」が58.5%という 回答があり合わせて94.3 %でありほぼ達成できた。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) 授業力向上を図 るため、外部の専 門家(ひのみね総 合療育センターリ ハビリテーション 課スタッフ)に自 立活動の授業を見 ていただき、一人 ひとりの児童生徒 の障害特性に基づ くアドバイスを受 けることで、授業 改善を図ることが できた。</p>	<p>・先生方の研修も積極 的に行っている。 ・特別支援学校の教員 は、長期間に渡って勤 務するのが望ましいと 思うが、数年で異動し ている場合もあり、な かなか専門性の維持が 難しいこともある。そ こで、「ひのみね支援学 校では、このレベルま で到達できた」などの 目標を定める工夫も必 要ではないか。それに 沿ってのプログラムを 考案することも一つの 方法ではないか。</p>
	<p>② 児童生徒一人 ひとりの教育プ ログラムの充実 を図り活用する。 [各学部]</p>	<p>② 個別の指導計画において年 間目標達成にむけての明確な 目標を立て活用することで、 日々の学習の充実を図ること ができた、という評価を80% 以上得る。</p>	<p>② 「明確な目標を立てる ことで、学習の充実を図 ることができた」という 項目は「とてもそう思う」 が24.5%で「そう思う」 が50.9%という回答があ り合わせて75.4%となり8 0.0%以上の達成はできな かった。</p>	<p>本校12年間の学 齢期を系統的且つ 連続性を保ち、積 み上げていく教育 課程の在り方を検 討し見直すことが できた。</p> <p>その際、キャリ ア発達を重視し、 支援プログラムの 試案を作成した。</p>	<p>・外部の専門家によ るコンサルテー ションで得られた 指導・助言を授業 等の中で、検証し ていく作業が重要 である。 ・教育活動として 再構築して「自立 活動」の充実を図 る。 ・学んだ成果は、 まとめた上で、研 究発表ができるよ うに準備していき たい。</p>
	<p>③ 本校における キャリア教育の あり方を検討す る。 [支援・研究開発部]</p>	<p>③ 児童生徒のキャリア教育の 基本的な考え方とキャリア教 育全体計画図を検討し、学習 や生活指導等に利用できるも のを作成する。</p>	<p>③ キャリア教育に関する 全体計画図作成検討会を 年1回以上開き、児童生 徒の発達段階の応じた支 援プログラム等試案が作 成できたが不十分である。</p>	<p>保護者からのア ンケートで、PT・S Tによるコンサルテ ーション等の授業 改善に対する項目 は、「とてもそう思 う」が40.0%で「そ う思う」が60.0% の回答があり、合 わせて100.0%であ った。なお、無回 答数が2あった。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①-1 各学級でコンサルテーシ ョン等を活用した授業改善を 行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 各学級でPT・ST によるコンサルテーシ ョンを各1時間ずつ受け授 業改善に取り組み、1月 末に報告書を提出した。</p>		
	<p>①-2 学部研修会や授業検討会</p>	<p>①-2 学部毎で定期的にコ</p>			

	により，指導や支援についての共通理解を深める。	ンサルテーション報告会を行い共通理解を図った。3学期には学部毎にコンサルテーションを活用した公開授業・授業検討会を各1回実施した。		
	②-1 学期目標・手だてを設定後ケース会をもつ。	②-1 各学部で学期始め(3回)にケース会を実施した。		
	②-2 学期始めに保護者と懇談を実施し，目標についての共通理解を図る。	②-2 懇談を5，9，1月に実施し，目標の共通理解を図った。		
	②-3 詳細な学習記録をとり，客観的に評価をする。	②-3 4月の研修で詳細な記録の必要性を説明し，評価する前にチェックシートを活用を周知した。		
	③ ケース別のキャリア教育支援プログラム表を検討作成し，本校のキャリア教育についての共通理解を図る。	③ 児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育支援プログラム表の試案を作成し，学部会，職員会議等で説明を行い，キャリア発達に応じた進路学習が実施できた。		

重点目標3 人権の推進にむけて

障害の有無にかかわらず，一人ひとりの人権が尊重される共生社会の実現に向けた取組が不十分で	(全校レベル) ① ICF の理念に対する理解と啓発を推進する。 [教育推進部]	評価指標 ① 各学部2回の研究授業，公開授業で，ICF関連図を使った授業参観者の間で話し合いを実施する。	評価指標の達成度	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校の素晴らしい取組をいろいろな機会を活用して地域に情報発信していただきたい。 大きく3つの重点目標から，派生するさまざまな取組は，総合的に捉えても非常に熱心に取り組み，うまく機能しつつある。取組に 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育システムを意識し，障害のある児童生徒が社会の中で，普通に生活できていけるような交流及び共同学習の仕掛けや工夫が必要である。
			① ICF の視点や関連図を活用して授業の話し合いを行い，効果的であったという項目は「とてもそう思う」が18.9%で「そう思う」が69.8%という回答があり合わせて88.7%となりほぼ目標数値が達成できた。	(評定) A (所見) ICF(国際生活機能分類)の理念は，生活機能をよりよい方向に変えるという観点があり，		

ある。

② 交流及び共同
学習の充実
[各学部]

②-1 事前の打ち合わせを十分
行うことで、効果的な交流及
び共同学習ができたという教
員評価を80.0%以上得る。

②-1 事前打ち合わせを十分
に行うことで、効果的
な交流及び共同学習が行
うことができたかという
項目は「とてもそう思う」
が22.6%で「そう思う」
が64.2%という回答があ
り合わせて86.8%となり
ほぼ目標数値が達成でき
た。

②-2 ホームページで交流及び
共同学習の内容を発信する。

②-2 ホームページで交
流及び共同学習の内容を
その都度発信することが
できたが、十分とはいえ
ない。

③ 地域の学校や
関係機関にむけ
て、障害のある
人のQOLの向
上に関する情報
発信を行う。
[支援・研究開発部]

③-1 小松島市特別支援教育コ
ーディネーター情報交換会参
加者のアンケート結果から「児
童生徒の支援に有効な情報を
得られた」という評価を80.0
%以上得る。

③-1 27名の参加者アンケ
ートから、「得られた」と
「おおむね得られた」と
いう評価を100%得た。

③-2 校外の研修会参加者のア
ンケート結果から「スヌーズ
レンの活用について、有効な
情報が得られた」という評価
を80.0%以上得る。

③-2 校外参加者のアンケ
ートにより「これからの
実践に役立つ、「やや役立
つ」という評価を97.0%
得た。

活動計画

①-1 命の教育や人権教育の推
進に向けて、教職員自らの意
識改革を図る。

活動計画の実施状況

①-1 指定研究をとおし
て、児童生徒がよりかけ
がえのない存在であると
感じたという項目は「と
てもそう思う」が56.6%
で「そう思う」が39.6%
という回答があり合わせ
て95.2%となりほぼ目標
数値が達成できた。

その視点で研究授
業、公開授業の指
導案を作成し、障
害児の理解と啓発
を推進した。

また、肢体不自由
教育の県南部の拠
点校として、特別
支援教育コーディ
ネーター情報交換
会を開催するなど
地域の特別支援教
育に貢献すること
ができた。保護者
からのアンケート
について、人権教
育の取組に対する
項目は、「とてもそ
う思う」が27.1%
で「そう思う」が6
6.7%の回答があ
り、合わせて94.4
%であった。「あま
り思わない」は5.6
%あった。無回答
数は1あった。

よる成果は、外部へ情
報発信して理解促進を
図ることが共生社会へ
の実現につながってい
くと思う。全ての情報
を発信していくことは
できないとしても、適
切な時期や個人情報に
配慮しながら有効に活
用していくことが大切
ではないか。

		<p>①-2 ICF関連図や資料を校内LANにアップし，取り組みやすい環境を整える。</p>	<p>①-2 資料をデータで提供することで，取り組みやすかったという項目は「とてもそう思う」が7.5%で「そう思う」が75.5%という回答があり，合わせて83.0%となりほぼ目標数値が達成できた。</p>			
		<p>②-1 実施する交流及び共同学習ごとに，1回以上打ち合わせを行う。</p>	<p>②-1 実施する交流及び共同学習について，1回以上事前の打ち合わせが行えた。</p>			
		<p>②-2 実施する交流及び共同学習について，1回以上ホームページに掲載する。</p>	<p>②-2 実施した交流及び共同学習について，複数回ホームページに掲載した。</p>			
		<p>③-1 小松島市特別支援教育コーディネーター情報交換会を開催し，地域の関係機関についての情報提供等を行う。</p>	<p>③-1 11月30日に小松島市特別支援教育コーディネーター情報交換会を開催し，発達支援センターハナミズキについての情報提供を行った。</p>			
		<p>③-2 地域の学校や関係機関を対象として，夏季休業中に外部講師を招き「スヌーズレンの活用について」の公開研修会及び本校スヌーズレンルームの体験会を開催する。</p>	<p>③-2 8月20日に姫路獨協大学客員教授太田篤志氏を講師に招き，公開研修会及び体験会を実施し，校外から45名の参加があった。この研修会の様子について，ユーストリームを活用し配信することができた。また，あわ教育の中ではポスター発表を行った。</p>			

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった